

沼田町

三宅 佑季

図 1 沼田町の町章

1. 概要と歴史

1.1 沼田町の町章

「ヌ」「マ」「田」の3字を組み合わせて図案化。

先人の開拓精神と町民の団結、協調による象徴である。



出典 沼田町公式 HP

1.2 地名の由来と歴史

沼田町の開拓は1894年、富山県人沼田喜三郎翁が郷里から18戸の移住を図ったのがはじまりである。

1914年、北竜村より分離し、上北竜村と称し、戸長役場を設置した。1918年、幌加内村を分割し、1919年、二級町村制を施行、村名を上北竜村とし、1922年沼田町と改称、1951年に町制施行した。

沼田町の由来は、沼田喜三郎の姓からきたものである。石狩平野の最北部に位置し、かつては炭鉱と稻作の町として繁栄してきたが、1968年に雨竜炭鉱が閉山し、その後稻作中心の農業の町へと転換した。

図 2 沼田喜三郎



出典 越中沼田市系 HP

1.3 炭鉱の歴史

埋蔵量は2億トンを超えるとされ、硫黄分が少ない良質な石炭、積出港の留萌港に近接するなどの好条件もあり、国内屈指の有力炭鉱とされていた。しかし、エネルギー革命の進展や安全対策に要するコスト増、多くの断層による計画的な採炭の難しさが加わり、昭和40年代前半のうちに閉山に追い込まれた。現在、かつての炭鉱とは別の場所で露天掘による採掘が行われている。

第二次世界大戦中は、労働力不足を補う目的で中国人、朝鮮人の強制労働が行われていた。元労働者には、終戦を知らずに13年間北海道内で逃亡生活を送った劉連仁などがいる。

炭鉱の資料は付近で操業されていた浅野炭鉱、太刀別炭鉱と併せて沼田町にある「沼田町ふるさと資料館」に若干の資料が展示されている。

2. 地理と気候

2.1 地理

北海道のほぼ中央、空知支庁管内の北西部に位置している沼田町は、山は青く水は清い豊かな自然に包まれた町である。

南部の平坦部は広大な石狩平野の北端の一部で肥沃な水田地帯となっており、市街地や農耕地はこの平坦部を流れる雨竜川や小河川の流域に沿って南に開けている。また西側は牧場、畑作地帯、他の二方山山岳地帯で占められている。沼田町は北緯 $43^{\circ}46'$ 東経 $141^{\circ}52' \sim 142^{\circ}05'$ にあり、面積は : 283.21 平方キロメートルであり、耕地面積は 4,370ha(田 3,160ha, 畑 1,210ha)となっている。

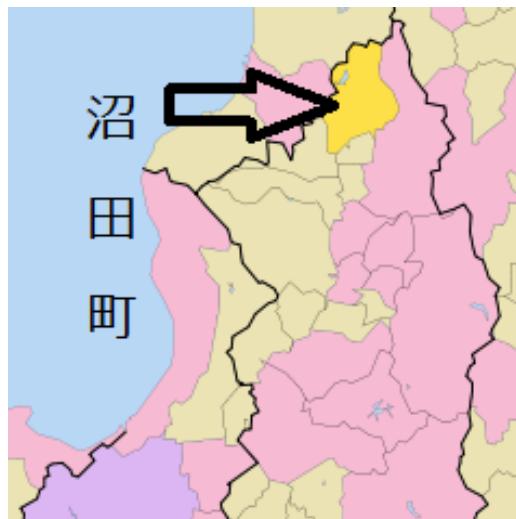
沼田町にはホロピリ湖という湖もある。北空知地域に生活・農業用水を供給しているダムであるホロピリ湖(沼田ダム)。その昔は炭鉱の町として栄えていた場所である。現在は、湖の底になっている。秋には紅葉を見る観光客が訪れ、春や夏には、野生の植物や動物を撮影に来る写真愛好家などが訪れる穴場的スポットである。

図 3 沼田町の位置



出典 沼田町公式 HP

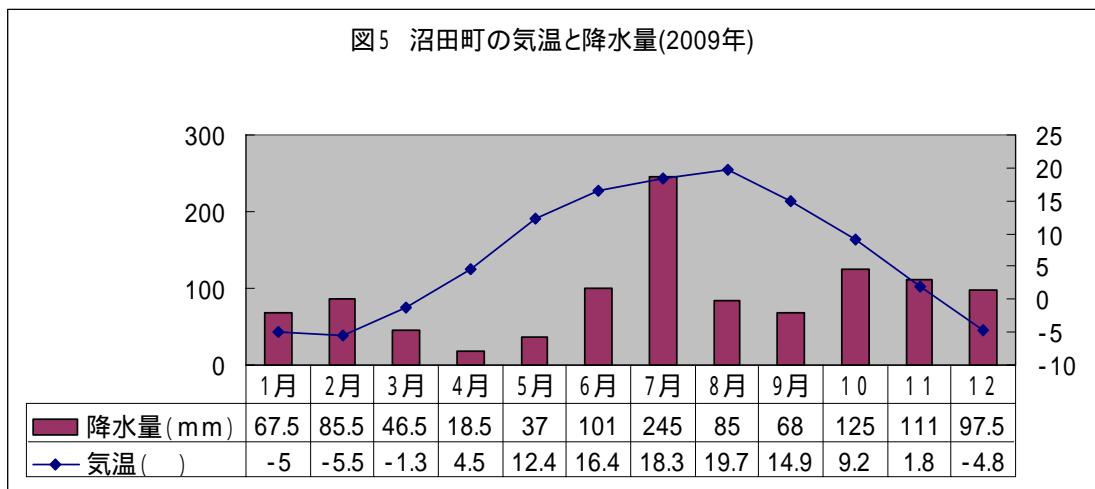
図 4 沼田町の位置



出典 Wikipedia HP

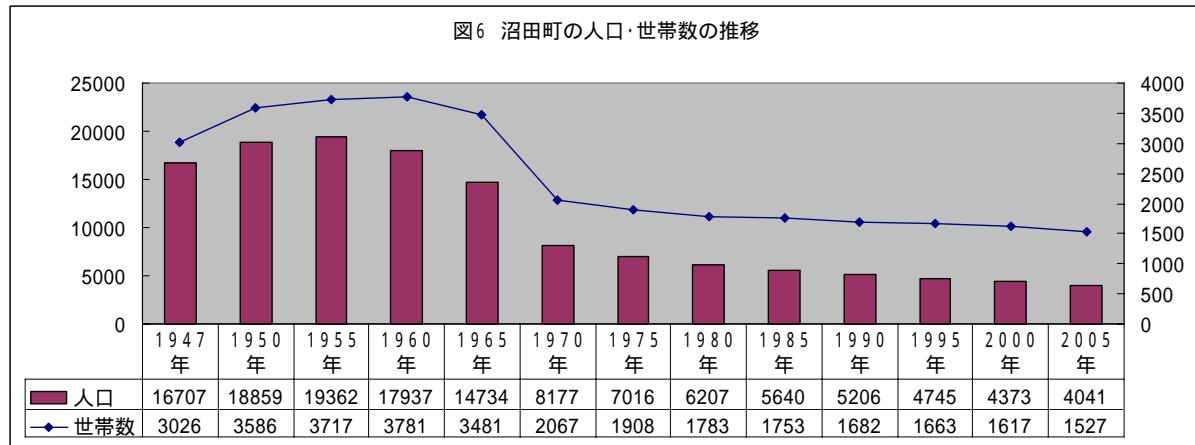
2.2 気候

気候は内陸型で四季の区別がはっきりしており、自然を通して季節の変わりゆくさまを感じることができる。図 5 より、平均気温は 6.7 ℃ であり、あまり暖かくないところである。さらに、夏と冬での温度差が大きく、さらに、降水量の差も大きいことから内陸の典型的な地域であると読み取れる。降水量は 4,5 月に大きく減るが、冬の時期にはそれなりの降水量があるために、雪が多い地域であると思われる。2009 年には、7 月に 245mm という大量の雨が降った。



出典 気象庁 HP

3. 人口と世帯数



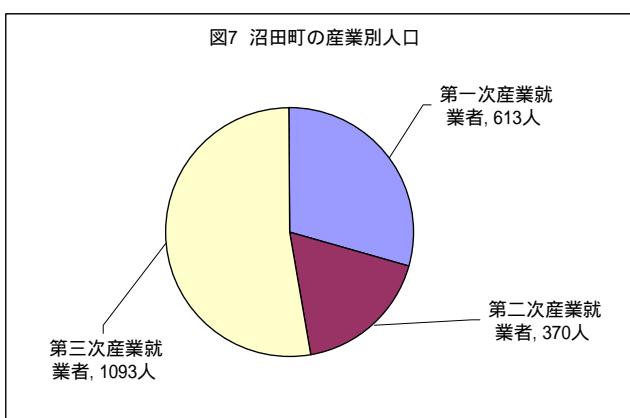
出典 北海道庁 HP (国勢調査)

図6をみると、1947年から1965年までは石炭と稲作の町であり、人口・世帯数ともに多く1955年には19362人というピークを迎えていた。しかし、1968年に雨竜炭鉱が閉山したために、1970年の国勢調査では人口は大幅に減りピーク時の半分以下になっている。その後年々減り続け、結果的に2005年にはさらに1970年の半分となっている。世帯数を見ると世帯数の減少に比べ人口の減少が大きいことから、若い人が都市部へ移ったと考えられる。

4. 産業

4.1 産業別人口

沼田町の産業別人口を見ると、内陸であるのに第一次産業就業者が多いことから4.2からもわかるように沼田町では農業が



盛んであるということがわかる。

4.2 農業

水稻を基幹作物とし、道産米の評価では最高位にランクされ「ななつぼし」や「きらら397」を主に生産しており、話題の「ゆめぴりか」の作付けも行っている。

主要作物としては、土地利用型作物の麦・大豆・ソバ等と、集約的作物の花卉・メロンなどが栽培されていて、近年ではブロッコリーの作付けが増え産地化が図られている。

1戸当たりの平均耕地面積は約20haと道内の水田地帯の中でも大規模化が進み、認定農業者などへの農地集積が図られている。図8をみると、沼田町では圧倒的に米の生産が多く全体の約4分の3を占めていて、米の生産が沼田町にとって非常に重要であることがわかる。図9をみると、沼田町では女の人のほうが、農業就業人口が多いことが推測できる。さらに、農業就業者が多い年代は、男女ほぼ同じように50から59歳、75歳以上であり、若い人が農業離れしていることが明らかとなっている。

図8 2006年度農業産出額(千万円)

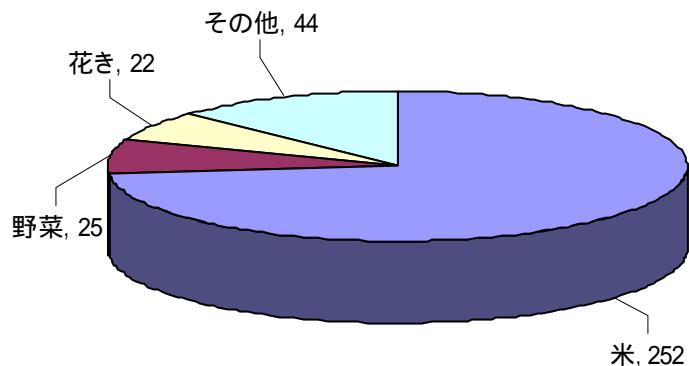
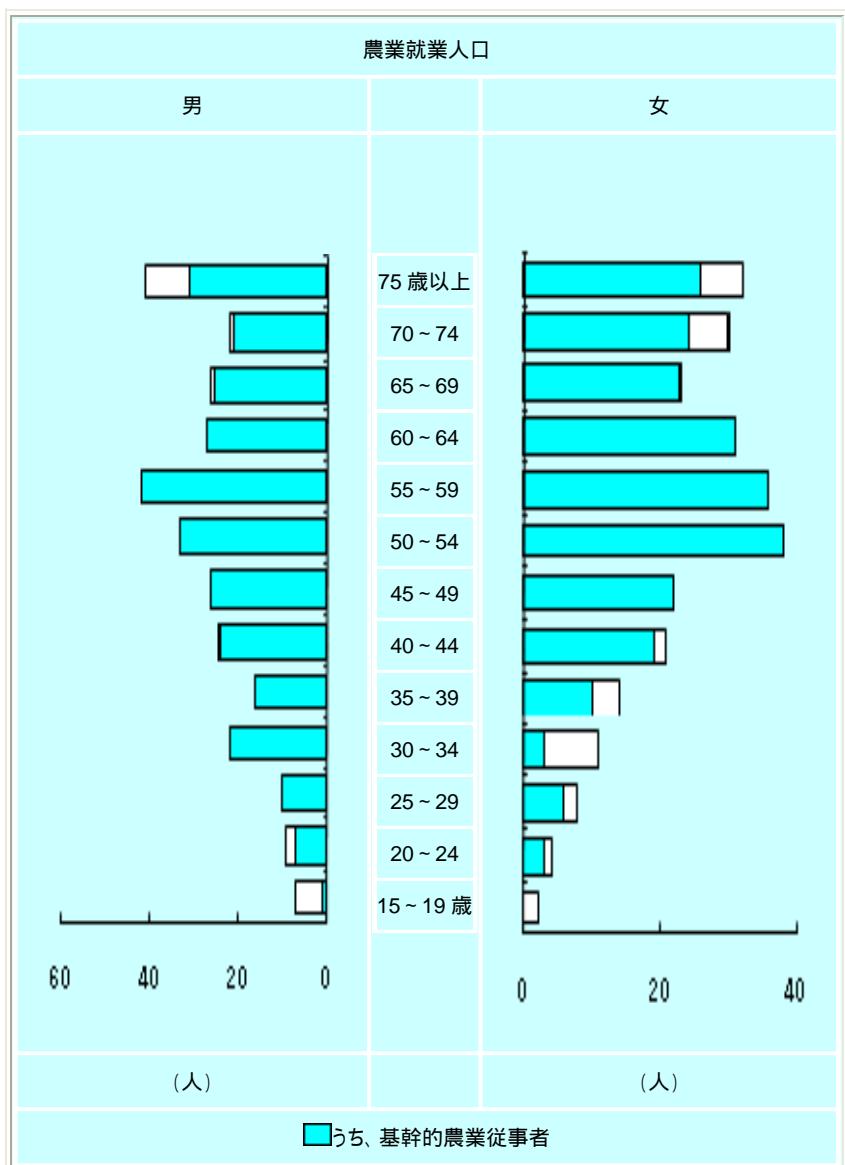


図9 沼田町の農業就業人口・基幹的農業従事者



出典 農林水産省

4.3 雪中米

北海道有数の豪雪地帯に位置する沼田町。その豊富な雪解け水が美味しいお米を育て、昔ながらの「はさがけ米」を手本に、自然の風でゆっくり時間をかけて乾燥させたあと糊摺りをしている。夏季間は、自然の雪を利用し、新米の風味を保つように雪温で蓄えて、雪中米を出荷している。沼田町米穀低温貯留乾燥調製施設(スノーケールライスファクトリー)の雪室には、毎年ダンプおよそ500台分の雪が入れられている。

図10 沼田町の雪中米生産農家

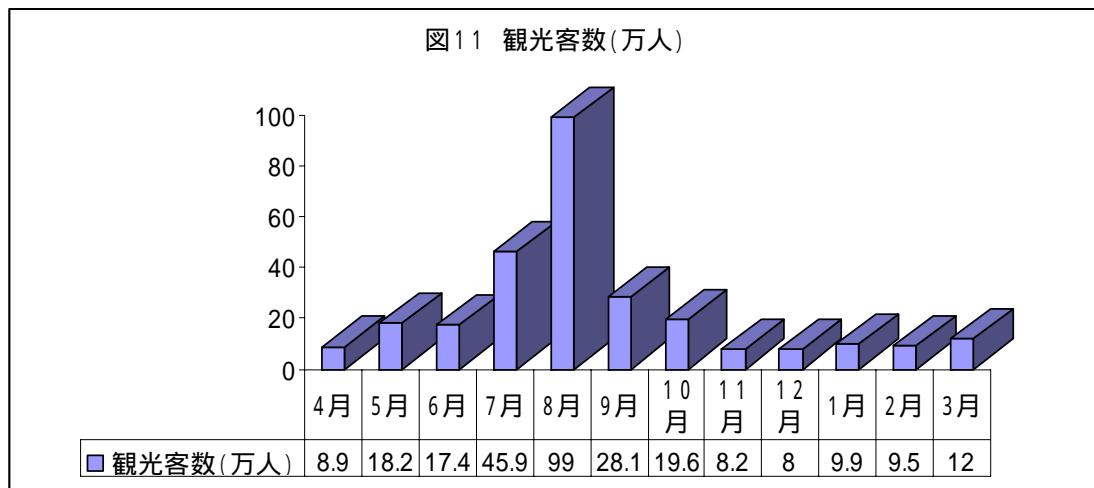


出典 沼田町公式HP

5. 観光

5.1 観光客数

図11より、7月と8月に観光客数がとても多いので、夏休みを利用した子供と親が、5.2より沼田町に多く生息しているほたるを見に訪れたり、5.3より昔から有名な夏に行われている夜高あんどん祭りを見るために訪れていると考えられる。ここから、沼田町は夏の時期の観光を中心として非常に多くの人を呼び込んでいることがわかる。



出典 北海道庁

5.2 ほたる

ふれあい交流を深めることを目的に作られた「ほたる学習館」では、ほたるの成育の様子が実際に観察できる飼育室や発光のメカニズムを探る発光模型、ビデオ映像などにより昆虫と自然環境・農業のさまざまなことが、楽しく分かりやすく学習することができる。

ほたる館から約400m離れている観賞ドームで1990年より飼育を始めた源氏ほたるは、ほたる園全てで自然繁殖するまでに定着し、園内全体に生息場所を広げて園路を散策しな

がらほたるの光を観賞（夜間）ができる。

観賞できる時期は、7月上旬から（ピークと思われる時期が7月中旬）8月上旬の期間が成虫として光を放ちながら飛び交う姿を観賞できる。さらに、同時期には「ほたる祭り」も開かれている。

5.3 夜高あんどん祭り

夜高あんどん祭りとは、今をさかのぼること350年前。1653年、越中・砺波の里で福野村の鎮守の氏神として、伊勢神宮より御分霊を勧請した還宮の行列。御一行は、加賀と越中の国境である具利加羅峠にさしかかったところで日暮れを迎えてしまい、どうにも先へ勧めぬようになったのである。この知らせを飛脚で知った村民は手に手に燈火用のあんどんを持って峠へとはせ参じ、村を挙げて奉迎した。これを起源として祭りが生まれ、地元で代々受け継がれてきたのである。2010年の今年も8月27日（金）～28日（土）に開催される。

図13 ほたる学習館



出典 沼田町公式HP

図14 夜高あんどん祭り



出典 沼田町夜高あんどん祭り公式HP

* 参照 HP

- ・沼田町公式HP : <http://www.town.numata.hokkaido.jp/>
- ・北海道庁HP : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・沼田町夜高あんどん祭り公式HP : <http://210.229.188.27/yotaka>
- ・農林水産省HP : <http://www.maff.go.jp/>
- ・気象庁HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・統計局HP : <http://www.stat.go.jp/>
- ・越中沼田市系HP : http://www.geocities.jp/numada777/numadakai/nmd_kei.html
- ・ウィキペディアHP : <http://ja.wikipedia.org/wiki/>